



CAR デバイス レポートの設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。管理者だけがデバイス レポートを生成します。

デバイス レポートは、会議ブリッジ、ボイス メッセージング サーバ、ゲートウェイなどの Cisco Unified Communications Manager 関連デバイスについて、負荷およびパフォーマンスを追跡します。

この章は次の内容で構成されています。

- [ゲートウェイ レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ルート プラン レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [会議ブリッジ レポートの設定 \(P.7-15\)](#)
- [ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定 \(P.7-18\)](#)
- [関連項目 \(P.7-20\)](#)

ゲートウェイ レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ レポートを生成します。次の各項で、ゲートウェイの詳細レポート、要約レポート、および使用状況レポートを設定する方法について説明します。

- [ゲートウェイ詳細レポートの設定 \(P.7-2\)](#)
- [ゲートウェイ要約レポートの設定 \(P.7-4\)](#)
- [ゲートウェイ使用状況レポートの設定 \(P.7-6\)](#)

ゲートウェイ詳細レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ詳細レポートを生成します。ゲートウェイ詳細レポートは、特定のゲートウェイの問題を追跡するために使用します。

この項では、選択したゲートウェイに関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Gateway] > [Detail] を選択します。

[Gateway Detail] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 レポートに含めることができるゲートウェイのリストを [List of Gateways] ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、[List of Gateways] ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルートパターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルートパターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルートパターン/ハントリストのリストが表示されます。リストからルートパターン/ハントパイロットを選択すると、ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルートパターン/ハントリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハントリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハントリストを検索します。

ステップ 3 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 一度に最大 5 つのゲートウェイに関するレポートを生成できます。

ステップ 4 選択されたゲートウェイを [Selected Gateways] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したゲートウェイが [Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 5 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。[表 7-1](#) で、コール タイプについて説明します。

表 7-1 コール タイプ別のゲートウェイの詳細

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。 P.3-3 の「ダイアルプランの設定」 を参照してください。
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール
Tandem	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入り、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークから外部に転送される着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 6 [Select QoS] 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。[P.4-6 の「QoS 値の定義」](#) で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 7-2 ゲートウェイ詳細の音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれていることを示します。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

ステップ 7 コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 8 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 9 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 10 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

ゲートウェイ要約レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ要約レポートを生成します。このレポートは、ゲートウェイを経由したすべてのコールの要約を提供します。この情報は、ゲートウェイを通過するコールのトラフィックと QoS を監視するために使用できます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。

この項では、ゲートウェイに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Gateway] > [Summary] を選択します。

[Gateway Summary] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6**に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、**ステップ 3**に進みます。

ステップ 3 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。**表 7-3** で、コール タイプについて説明します。



ヒント すべてのチェックボックスをオンにするには、[Select All] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[Clear All] をクリックします。

表 7-3 コール タイプ別のゲートウェイ要約

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。 P.3-3 の「ダイアルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified Communications Manager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイまたはトランクを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカルエリアコードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール
Tandem	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入り、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークから外部に転送される着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 4 [Generate New Report] を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

■ ゲートウェイ レポートの設定

- ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。
- ステップ 6** [View Report] ボタンをクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

ゲートウェイ使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるゲートウェイの概算使用率を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、11 ~ 12 時間目のゲートウェイ使用状況は、 $(\text{その時間にゲートウェイを使用したコールの接続時間合計}) / (1 \text{ 時間のうちの最大接続時間 (秒数)} \times \text{ゲートウェイの最大ポート数} \times \text{選択した fromDate から toDate までの日数}) \times 100$ として計算されます。同様に、1 日全体の使用状況を算出する場合は、時間ごとに上記の使用状況が計算されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。

週の使用状況レポートの場合、使用状況は、 $(\text{ある日にゲートウェイを使用したコールの接続時間合計}) / (\text{それぞれの日の最大接続時間 (秒数)} \times \text{選択した fromDate から toDate までの日数} \times \text{ゲートウェイの最大ポート数}) \times 100$ として計算されます。

月の使用状況レポートの場合、使用状況は、 $(\text{ある日にゲートウェイを使用したコールの接続時間合計}) / (\text{それぞれの日の最大接続時間 (秒数)} \times \text{選択した fromDate から toDate までの日数} \times \text{ゲートウェイの最大ポート数}) \times 100$ として計算されます。

レポートは選択されたゲートウェイごとに生成されます。

H.323 ゲートウェイの使用状況の計算では、[CAR Gateway Configuration] ウィンドウから取得されたポート番号が使用されます。このウィンドウを表示するには、[System] > [System Parameters] > [Gateway Configuration] を選択します。H.323 ゲートウェイのポートの詳細を Cisco Unified Communications Manager データベースから取得することはできません。これは、データベースでは H.323 ポート番号は常に 0 になっているためです。ユーザは、[CAR Gateway Configuration] ウィンドウで H.323 ゲートウェイのポート情報を更新する必要があります。

[CAR Gateway Configuration] ウィンドウから取得できるポートの詳細情報は、使用可能なポートの詳細を保持していないゲートウェイや、Cisco Unified Communications Manager データベースで 0 になっているゲートウェイのものだけであることに注意してください。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-1 の「CAR システムの設定」を参照してください。

この項では、ゲートウェイ使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Gateway] > [Utilization] を選択します。

[Gateway Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Reports] フィールドで、表 7-4 の説明に従って期間を選択します。

表 7-4 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の累積使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数の累積使用状況を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 レポートに含めることができるゲートウェイのリストを [List of Gateways] ボックスに表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- すべてのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] をクリックします。
- 特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイを [List of Gateways] ボックスに表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ゲートウェイ タイプのリストが表示されます。リストからゲートウェイ タイプを選択すると、[List of Gateways] ボックスにゲートウェイ名が表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

- 設定済みのルート パターン/ハントパイロットに関連付けられているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンを使用するゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。ツリー構造が展開され、ルート パターン/ハント リストのリストが表示されます。リストからルート パターン/ハントパイロットを選択すると、ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。

■ ゲートウェイ レポートの設定



(注) ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルートパターン/ハン トリストの名前の一部を入力して、特定のルートパターン/ハン トリストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルートパターン/ハン トリストを検索します。

ステップ 5 リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイ を最大 200 まで表示できます。

ステップ 6 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 一度に最大 5 つのゲートウェイに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 下矢印をクリックして、選択したゲートウェイを [Selected Gateways] リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが [Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 8 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 10 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

[P.7-20](#) の「関連項目」を参照してください。

ルート プラン レポートの設定

CAR 管理者だけがルート プラン レポートを生成します。次の各項で、ルートと回線グループ、ルート/ハント リスト、およびルート パターン/ハントパイロットの使用状況レポートを設定する方法について説明します。

ルート プランの場合は、次のデバイス レポートを設定します。

- [ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定 \(P.7-9\)](#)
- [ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定 \(P.7-11\)](#)
- [ルートパターン/ハントパイロットの使用状況レポートの設定 \(P.7-13\)](#)

ルートおよび回線グループの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成します。このレポートは、ルートおよび回線グループの最大使用率（ルートおよび回線グループに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示します。使用状況はゲートウェイの使用状況と同じ方法で計算されますが、この計算では、ルートグループに含まれているすべてのゲートウェイと、回線グループに含まれているすべての回線の累積使用状況が示されます。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルートおよび回線グループごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-1](#) の「[CAR システムの設定](#)」を参照してください。

この項では、ルートおよび回線グループの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Route Plan] > [Route and Line Group Utilization] を選択します。

[Route and Line Group Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Reports] フィールドで、[表 7-5](#) の説明に従って期間を選択します。

表 7-5 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の累積使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数の累積使用状況を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 10](#) に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。

■ ルート プラン レポートの設定

ステップ 4 特定のルート パターンを使用しているルートおよび回線グループのみを選択するには、ウィンドウの左側のカラムで **[Route Patterns/Hunt Pilots]** をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルート パターン/ハント リストが表示されます。



(注) ウィンドウの左側のカラムで **[Route Patterns/Hunt Pilots]** ボックスにルート パターン/ハント リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン/ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン/ハント リストを検索します。

ステップ 5 リストから、ルート パターン/ハント リストを選択します。

このルート パターン / ハント リストのルートおよび回線グループが、**[List of Route/Line Groups]** ボックスに表示されます。



(注) **[List of Route/Line Groups]** ボックスには、ルートグループが 200 個まで表示されます。

ステップ 6 **[List of Route/Line Groups]** ボックスで、レポートに含めるルート / 回線グループを選択します。



(注) 一度に最大 5 つのルート / 回線グループに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 選択されたゲートウェイを **[Selected Route/Line Groups]** リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したルート / 回線グループが **[Selected Route/Line Groups]** ボックスに表示されます。

ステップ 8 **[Generate New Report]** を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、**[Report Format]** 領域で **[CSV]** を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、**[Report Format]** 領域で **[PDF]** を選択します。

ステップ 10 **[View Report]** ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、**[Send Report]** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16 の「レポートのメール送信」](#) で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

ルート/ハント リストの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルート/ハント リストの使用状況レポートを生成します。ルート/ハント リストの使用状況レポートは、所定の期間におけるルート/ハント リストの最大使用率（ルート/ハント リストに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート リストに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハント リストに含まれているすべての回線の累積使用状況です。

1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート/ハント リストごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

この項では、ルート/ハント リストの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Route Plan] > [Route/Hunt List Utilization] を選択します。

[Route/Hunt List Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、表 7-6 の説明に従って期間を選択します。

表 7-6 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の累積使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数の累積使用状況を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 10 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 レポートに含めるルート/ハント リストを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。ツリー構造が展開され、選択したルート パターン/ハント パイロットが表示されます。



(注) ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン/ハント リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン/ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン/ハント リストを検索します。

■ ルートプランレポートの設定

ステップ 5 リストから、ルート/ハントリストを選択します。

ルート/ハントリストの名前が、[List of Route/Hunt Lists] ボックスに表示されます。



(注) [List of Route/Hunt Lists] ボックスには、ルート/ハントリストが 200 個まで表示されます。

ステップ 6 [List of Route/Hunt Lists] ボックスで、レポートに含めるルート/ハントリストを選択します。



(注) 一度に最大 5 つのルート/ハントリストに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 選択されたルート/ハントリストを [Selected Route/Hunt Lists] ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したルート/ハントリストが [Selected Route/Hunt Lists] ボックスに表示されます。

ステップ 8 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 10 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

ルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるルート パターン/ハント パイロットの最大使用率（ルート パターン/ハント パイロットに含まれているすべてのゲートウェイの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。計算されるのは、ルート パターンに含まれているすべてのゲートウェイ、およびハントパイロットに含まれているすべての回線の使用状況です。1 日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。レポートは、選択したルート パターン/ハント パイロットごとに生成されます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」](#)を参照してください。

この項では、ルート パターン/ハント パイロットの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Route Plan] > [Route Pattern/Hunt Pilot Utilization] を選択します。

[Route Pattern/Hunt Pilot Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、[表 7-7](#) の説明に従って期間を選択します。

表 7-7 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 8 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の累積使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 8 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数の累積使用状況を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 10](#) に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 4 レポートに含めるルート パターン / ハント リストを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。

ツリー構造が展開され、選択したルート パターン/ハント リストが表示されます。



(注) ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン/ハント リストの名前の一部を入力して、特定のルート パターン/ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン/ハント リストを検索します。

■ ルートプランレポートの設定

ステップ 5 リストから、ルートパターン/ハントパイロットを選択します。

ルートパターン/ハントパイロットの名前が、[List of Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスに表示されます。



(注) [List of Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスには、ルートパターン/ハントリストが 200 個まで表示されます。

ステップ 6 [List of Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスで、レポートに含めるルートパターン/ハントリストを選択します。



(注) 一度に最大 5 つのルートパターン/ハントパイロットに関するレポートを生成できます。

ステップ 7 下矢印をクリックして、選択したルートパターン/ハントパイロットを[Selected Route Patterns/Hunt Pilots] リストボックスに移動します。

選択したルートパターン/ハントパイロットが [Selected Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスに表示されます。

ステップ 8 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 9 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 10 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 11 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

会議ブリッジレポートの設定

CAR 管理者だけが会議ブリッジレポートを生成します。次の各項で、会議コール詳細レポートおよび会議ブリッジ使用状況レポートを設定する方法について説明します。

- [会議コールの詳細の設定 \(P.7-15\)](#)
- [会議ブリッジの使用状況レポートの設定 \(P.7-16\)](#)

会議コールの詳細の設定

CAR 管理者だけが会議コールの詳細レポートを生成します。会議コールの詳細レポートを使用すると、会議コールの詳細情報を生成および表示できます。

この項では、会議コールの詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Conference Bridge] > [Call Details] を選択します。

[Conference Call Details] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Report Type] ドロップダウンメニューで、[Summary] または [Detail] のどちらかを選択します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 7](#)に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

ステップ 4 [Select Conference Types] で、[表 7-8](#) の説明に従って、レポートに含める会議タイプのチェックボックスをオンにします。

表 7-8 Conference Calls Detail のフィールド

パラメータ	説明
Ad-Hoc	アドホック会議では、会議の司会者が、特定の参加者のみを会議に参加させることができます。
Meet-Me	ミーティング会議では、ユーザが会議にダイヤルインすることができます。

ステップ 5 [Generate New Report] を選択した場合は、会議コールの詳細を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 6 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

■ 会議ブリッジレポートの設定

ステップ7 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ8 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20の「関連項目」を参照してください。

会議ブリッジの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけが会議ブリッジの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間における会議ブリッジの使用率（OnDemand レポート用に選択したすべての会議ブリッジの累積使用状況）の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、11～12時間目の使用状況は、 $(\text{その時間に会議ブリッジを使用したコールの接続時間の合計}) / (\text{選択した fromDate から toDate までの日数} \times \text{会議ブリッジのストリームの最大数} \times 1 \text{ 時間のうちの最大接続時間秒数}) \times 100$ として計算されます。計算された値は、11～12時間目の使用状況としてレポートに表示されます。1日の中の時間単位で、または毎週または毎月の指定した日数単位で使用状況を調べることができます。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

この項では、会議ブリッジタイプごとの会議ブリッジの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ1 [Device Reports] > [Conference Bridge] > [Utilization] を選択します。

[Conference Bridge Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Generate Report] フィールドで、表 7-9 の説明に従って期間を選択します。

表 7-9 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の累積使用状況を表示します。
Day of Week	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の累積使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 6 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数の累積使用状況を表示します。

ステップ3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 左側のペインの [Conference Bridge Types] カラムから、使用状況レポートに含める会議ブリッジのタイプを選択します。

選択した特定のタイプの会議ブリッジが、[List of Devices] ボックスに表示されます。



(注) このレポートの場合は、最大 5 つの会議ブリッジを選択できます。

ステップ 5 レポートに含める会議ブリッジをすべて選択したら、下矢印をクリックして、それらを [Selected Devices] ボックスに追加します。

ステップ 6 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 7 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 8 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 9 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

ボイス メッセージングの使用状況レポートの設定

CAR 管理者だけがボイス メッセージングの使用状況レポートを生成します。このレポートは、所定の期間におけるボイス メッセージング デバイスの最大使用率の概算を提示するもので、正確な使用状況ではありません。たとえば、11 ~ 12 時間目のボイス メッセージング ポート / ボイス メッセージング DN の使用状況を計算するには、ボイス メッセージング ポート / ボイス メッセージング DN に使用されたコールの接続時間を使用します。ボイス メッセージング ポートの使用状況は、(その時間にボイス メッセージング ポートを使用したコールの接続時間合計 × 100) / (1 時間のうちの最大接続時間秒数 × 選択した fromDate から toDate までの日数) として計算されます。ボイス メッセージング DN の使用状況は、(その時間にボイス メッセージング DN を使用したコールの接続時間合計 × 100) / (1 時間のうちの最大接続時間秒数 × 選択した fromDate から toDate までの日数 × ボイス メッセージング DN に接続されているゲートウェイの最大ポート数) として計算されます。この値が、11 ~ 12 時間目の使用状況としてレポートに表示されます。

ボイス メッセージング ポートのボイス メッセージング使用状況レポートは、新規レポートとしてのみ生成できます。システムが自動的に生成するレポートではありません。

ボイス メッセージング DN のボイス メッセージング使用状況レポートは、自動的に生成することもできれば、新規レポートとして生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、[P.3-8](#) の「[CAR システム スケジューラの設定](#)」を参照してください。



(注)

CAR ボイス メッセージング使用状況レポートは、Cisco Unity および Cisco Unity Connection ボイス メッセージング システムをサポートします。

この項では、ボイス メッセージングの使用状況レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [Device Reports] > [Voice Messaging] > [Utilization] を選択します。

[Voice Messaging Utilization] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、[表 7-10](#) の説明に従って期間を選択します。

表 7-10 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 10 で指定する期間の 24 時間期間内の各時間の使用状況結果を表示します。
Day of Week	ステップ 10 で指定する期間内でレポートの対象とする曜日の使用状況を表示します。
Day of Month	ステップ 10 で指定する期間内でレポートの対象とするその月の日数の使用状況を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、[ステップ 12](#)に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、[ステップ 4](#)に進みます。

ステップ 4 ボイス メッセージング DN を選択するには、左側のペインの [Voice Messaging DN] をクリックします。

すでに設定されているボイス メッセージング DN が表示されます。



(注) このウィンドウに表示されるボイス メッセージング DN は、VoiceMailDn サービス パラメータに設定したボイス メッセージング DN であり、Cisco Messaging Interface サービスをサポートします。パラメータ名 VoiceMailDn を、マシンに作成したルーティングパターンに設定します。この設定を行うには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを開き、[システム] をクリックします。[サービスパラメータ] をクリックし、[Cisco Messaging Interface] サービスを選択します。

ステップ 5 ボイス メッセージング DN を選択します。

選択した DN が [List of DN/Ports] リスト ボックスに表示されます。

ステップ 6 ボイス メッセージング ポートを選択するには、左側のペインの [Voice Messaging Ports] をクリックします。

設定済みのボイス メッセージング ポートのリストが表示されます。

ステップ 7 ポートのリストから、ボイス メッセージング ポートを選択します。

選択したポートが [List of DN/Ports] リスト ボックスに表示されます。

ステップ 8 [Select Voice Messaging DN/Ports] で、下矢印をクリックします。

選択したポートが [Selected DN/Ports] リスト ボックスに表示されます。

ステップ 9 レポートに含めるポートをすべて選択するまで、[ステップ 7](#)と[ステップ 8](#)を繰り返します。



(注) このレポートには、最大 5 つのボイス メッセージング ポート / ボイス メッセージング DN を選択できます。デフォルトのボイス メッセージング DN と 4 つのボイス メッセージング ポート、または 5 つのボイス メッセージング ポートを選択することができます。

ステップ 10 [Generate New Report] を選択した場合は、コール情報を表示する期間の日付範囲を入力します。



(注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 11 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

■ 関連項目

ステップ 12 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 13 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.7-20 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [ボイス メッセージング使用状況レポートの結果 \(P.11-45\)](#)
- [会議ブリッジ使用状況レポートの結果 \(P.11-43\)](#)
- [会議コール詳細レポートの結果 \(P.11-41\)](#)
- [ゲートウェイおよびルート使用状況レポートの結果 \(P.11-37\)](#)
- [ゲートウェイ詳細レポートの結果 \(P.11-33\)](#)